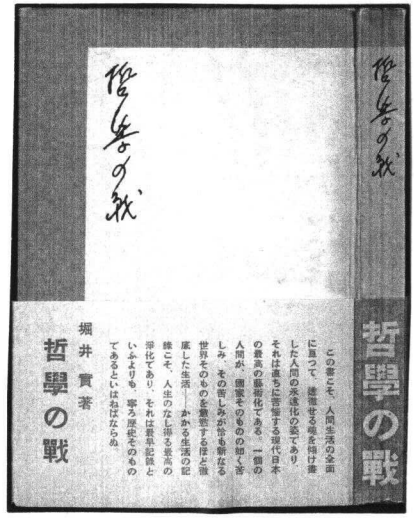


堀井實 ほりい じつ 哲學者。明治四十一年生れ、昭和十五年一月十九日歿（一九一九—四〇）。本名 實實 たかむら。京都帝國大學文學部哲學科卒。卒業後程なく瀧川雁久の手術。神田の夜會校で教へ、雑誌『理性』同人となり、また、東京藝術協會の理事などをつとめる中、海腸瀝血を再發して歿す。

著書に『ロスピノザ』（實實名、昭和十一年）二月十六日弘文堂書房「西洋叢書」）、『人間學と倫理學』（昭和十一年刊）、續稿集『哲學の戦』（昭和十五年五月）二十日日本問題研究所）。



この書こそ人間生活の全部に亘つて、總論を掲げ進んだ人間の文化の果てである。それは常に進行する現代日本の要求の集約化である。『人間學』著者のその如く、しみ、その言ひが新鮮なる世界そのものを著書する程に進展した生活——かかる生活の既成に、人間的な進歩の要求の進化あり、それは著者記述と一致する。著者研究の的であるといはねばならぬ。

堀井實著  
哲學の戦